

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 斉藤 隆

川に学ぶ体験活動協議会（略称RAC）は、「川の指導者」の育成や様々な活動を通じて川と人々との関係をより深いものにしていくことを目的として、平成12年9月に設立され、平成18年12月現在、125団体が加入しています。

今回は平成18年12月2日・3日に開催された「川に学ぶ体験活動全国大会」等を報告いたします。

【第6回川に学ぶ体験活動全国大会in関東】

昨年の夏は川での水難事故が多く発生したのではといわれています。川での水難事故はどうして発生するのか、RACとしてできることは何か。第6回となる全国大会では、「水辺のリスクマネジメント」にテーマを絞り、東京都港区の東京海洋大学で開催されました。当大会は平成12年より「川に学ぶ」社会形成に向けて、当協議会が各地域の関係団体と協力して開催しているものです。

1日目は新しくRAC代表理事に就任したNHK解説委員でもある大妻女子大学の藤吉洋一郎教授が基調講演を行いました。RAC設立の背景にある関正和氏著「大地の川」や広松伝氏が深く関わった「柳川掘割の再生」の精神、平成9年度の河川法改正の後にまとめられた「河川審議会川に学ぶ小委員会報告」などがRACの理念の礎になっていることが解説されました。また、全国各地で積極的に活動している8団体による活動紹介、その後下記の5つの分科会に分かれて、活発な検討がなされました。

- 1 安全入門 ~早川弁護士の法律相談~
- 2 事故事例から学ぶ
- 3 活動ノウハウ ~川の楽しみ方、楽しませ方~
- 4 RACにできること
- 5 指導ノウハウ ~プロジェクトWETを体験しよう

2日目には前日の分科会の検討成果等を踏まえ、河川局の久保田河川環境課長や早川弁護士、岸由二慶応義塾大学教授、新潟県見附市の久住市長、JpSART(水難救助の団体)の北川副理事長等を招き、日本河川協会の藤芳専務理事のコーディネートによるパネルディスカッションが行われました。テーマ

は「今、私たちにできること」。昨年発生した水難事故事例なども教訓にし、事故防止策や水辺での体験活動の普及方策について、誰もがすぐにでも取り組める多くの方策がまとめられました。「川のインタープリター」になりましょうという呼掛けや、複数の方から「川の危険を知ること」が最も大切だという提言がなされました。また、川の事故の多くは指導



活動中よりも、家族や友人とのレジャー中に多発していることから、一般の人にRACの活動を普及することが結果的に水難事故の防止に繋がるのではという分析もあり、早速「川遊び百選」のようなものを全国から募集しHPで紹介しようという具体的な普及策も提案されました。その他、ミクシィなどを通じてライフジャケット普及キャンペーンをもっと積極的に展開しようという提案もありました。当大会の概要はHPへ掲載する予定です。

【河川で環境学習を行う人の為の手引書完成】

トヨタ環境活動助成の一環として、小学校の先生向けに河川で環境学習を行う際の参考書を作成しました。川での総合的学習や自然体験活動の意義、さらにはNPOとの連携の方法について、具体的な事例をもとに解説しています。当協議会では教育関係者の方へ無償(送料は実費負担)で1部ずつ配布いたします。数に限りはありますが必要な方は送付先の住所ラベルと送料(80円切手)を同封の上、2月末までに下記へお送り下さい。

川に学ぶ体験活動協議会
東京都中央区入新川2-10-6 カヤヌマビル703号
TEL.03-5542-7577 FAX.03-5542-7578
<http://www.rac.gr.jp/>